

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今、小学生で青っ洩ばなの二本棒を鼻の下に並べている子どもなどサガアしても見つかりません。今から三十年前には、クラスに何人かは必ずそうした子どもがいたものです。しもやけなどというものも、今では、日常生活からは消えてしまいました。わたくしが子どものころは、ほとんど一冬中、手足はしもやけ、ひび、あかぎれに悩まされたものです。(A)、アメリカ人たちがケロシン(白灯油)をふんだんに使って、厳冬の室内で木綿のシャツ一枚で生きているのを、別世界の人間のように思ったことでした。その象徴は、きわめて原始的で、もう今ではたぶん、だれも使わないような、単純イなキコウのコールマン・ヒーターと呼ばれる石油ストーブでした。

もとより、これらを科学技術のおかげというのは少し違います。(B) それは、アメリカ流生活方式という一種の哲学のおかげであるわけです。しかし、しもやけやあかぎれのない世界の実現が、科学技術を支えている哲学と密接に結び付いていることは確かです。

戦後の日本は、人間の生命と生活とに関して、明らかに「科学的」かつ「 C 」な方向へ進むことに拍車をかけてきました。そのころ、科学はまだ人間の生命を救い生活を豊かにする力を無限に備えているものと信じられ、それにたずさわる科学者は、真理の探究への限りない情熱と人類を救おうとするヒューマニズムに溢あふれた白衣の聖職者、まあいってみれば、手塚治虫描くところの「お茶の水博士」(マンガ『鉄腕アトム』に登場する科学者)の如ごとき存在とみなされていたといえましょう。

しかし、このような事情は、ここ十年ばかりですっかり変わってしまいました。科学や技術にたずさわる人びとはどこか自信なげです。いや、自分の仕事に対する自らの信頼感がほんとうに揺れているわけではなく、世間の手前、あまり直ちよくせつ截に聖職者意識を丸出しにしてはいけなさと自重しているのかもしれない。とにかくあの高度成長当時の理工科ブームは大学から去りました。応用化学科などは、将来が「公害」企業への就職に連るということで、学生にはひどく人氣がなくなりました。ほんとうはそういう分野に優秀な人材が豊富に進むことが、今いちばんたいせつだし、本人にとってもい

わば「穴」なのですが、学生は割に目先にとらわれてしまうようです。

それはともかく、科学者たちが、ほんとうに自分たちの仕事を多少とも後めたく思い、あるいは、世間の強い風当たりに対して後めたく思っているぶりなどしなければならぬ、と考えるに到った一つの理由は、いうまでもなく「公害」や「資源有限論」だったわけですし、またイデンシウ工学の場合のように、科学者自身が手にした力の大きさとその残す影響のキョダイエさにたじろいでしまったような要素もあります。

それと同時に、もう一つ明らかになってきた要点は、「科学者」⁶「白衣の聖職者」という図式が現実に崩壊しつつあるということです。科学者でも人間なので、科学者と名が付きさえすれば、その人はつねに真理だけを追い求め、ひたすら人類全体の幸福のみを目指して行動する倫理的にも高潔な人である、というわけにはいかないのは、当たり前過ぎるほど当たり前のことですのに、その当たり前のことが、科学者を問題にする限り、永らく当たり前ではなかったのは、考えてみれば、ずいぶん奇妙なことには相違ありませんでした。(村上陽一郎「新しい科学論」より)

【語注】 ヒューマニズム …… 人類の平和や幸福の増進を目的とする主義 拍車をかける …… 仕事の進行を一段と促進する

問一 線部ア、エを漢字で書きなさい。

問二 線部1とありますが、どうしてそのように思ったのですか。日本の子どもと比較して説明しなさい。

問三 線部2に対する述語を一文節で答えなさい。

問四 () A・Bに入る最も適当な言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ むしろ ウ また エ つまり オ そして

問五 「 C」に入る最も適当な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 現実的 イ 社会的 ウ 近代的 エ 医学的

問六 線部3に用いられている表現法を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 体言止め イ 擬人法 ウ 倒置法 エ 直喩法

問七 線部4とはどういうことですか。文章中の言葉を用いてわかりやすく説明しなさい。

問八 線部5の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- 5
- ア 目の前のことにしげられる
 - イ 見向きもしない
 - ウ 注意してあちこち見る
 - エ ひどく忙しい

問九 線部6とありますがその原因を筆者は何だと考えていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 科学者が普通の人間だと気づいたから
- イ 科学者が悲惨な戦争を長引かせているから
- ウ 科学者が経済的保障を望むようになったから
- エ 科学者が露骨な競争心を抱くようになったから

問十 線部7の対義語を漢字で書きなさい。

問十一 線部8と同じ内容を表す部分を文章中より四十字で抜き出し、その初めと終わりの六文字を書きなさい。

問十二 「ひたすら」という語句が入った、二文以上の文章を作りなさい。

「次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。」

「ね。今夜はお互い、眠れればいいね」
毎週、別れ際には必ずそう言って笑いかけてくる藤谷に、ぼくはどうしても不眠症の完治を告げられなかった。
長い夜の中に藤谷ひとり置きざりにして、自分だけが先に脱けだしてしまった、という罪悪感。そして、もしもそのことが知れたら、藤谷はもうあの教室に来てくれなくなるかもしれない、という不安。

不眠症という絆をなくしたら、もうぼくと藤谷をつなぐものは何もなくなってしまう気がして、ぼくにはそれがこわかった。ぼくらは毎週、共通の悩みを語りあい、はげましあうためにあの薄暗い元音楽室へと足を運んでいたのだから。

実際、あの教室以外でのぼくらは、まったくの赤の他人だった。ときどき新校舎の廊下ですれちがったりしても、藤谷は見事に見て見ぬふりをしてくれた。へんな噂をたてられないように、ふたりでそうしようと決めていたわけだが、それにしても藤谷の演技は真に迫っていた。今、すれちがったのはただの空気……とでもいうようなそっけなさで、足早にするすると通りすぎていく。

そのたびにぼくはひどく不安になった。もしかしてぼくは大変なかんちがいをしてるんじゃないか？ 今まで藤谷と会ったりしたのは、なんかの夢とか幻覚とかではなかったのか、と。

そんなことがあったつぎの火曜日は、藤谷に会いに行くのが待ちどおしくもあつたし、空恐ろしくもあつた。

弱気な足どりでぼくは旧校舎をめざす。ぼやけた霧に巻かれたような旧校舎。その灰色の天井を仰ぎながら、一步一步、(A) 階段をのぼっていく。やがて頭上からピアノの音色が聴こえてくると、まるで陽ざしでも降ってきたように、ぱっと視界が明るくなる。一気に体が軽くなり、残りの段階はダッシュで駆けあがる。

元音楽室の前につく。(B) 勢いよく戸を開ける。ほこりっぽい部屋の前方に、軽く両目を閉じるようにしてピアノを奏でる藤谷の姿が見える。

ぼくに気づくと、藤谷は(C) 手を止めて、にこにこしながら決まってこう問いかけてくるのだ。

「きのうはちよつとも眠れた？」

いやもう、たつぷり十時間は眠ったよ、なんて言えるわけがない。

廊下ですれちがったときの(D) を埋めあわせるかのように、元音楽室での藤谷はつねに優しく、ぼくに惜しめない友情を与えつづけてくれた。

「ねえあたし、こないだ本で見たんだけど、ホットミルクにブランデーたらして飲むと、気持ちよく眠れるんだってよ」

「眠ろう、眠ろうって思えば思うほど、眠れなくなるものみたい。眠れないなら起きてればいいやって開きなおったとたん、眠れるようになった人もいるんだって」

「不眠症で死んだ人はいないって話、知ってる？」

そんな藤谷の気づかいがぼくは本当にうれしかったけど、不眠症が治ってからは、これほど心苦しいこともなかった。

(森 絵都「彼女のARIA」より)

問一 線部ア～エの読みをひらがなで書きなさい。

問二 線部 a～d の「に」の中で文法上他と異なるものを一つ選び記号で答えなさい。

問三 線部 1 とはどういうことですか。わかりやすく説明しなさい。

問四 線部 2・3 は何を指していますか。2 は文章中から六字で抜き出し、3 は文章中の言葉を用いて二十五字以内で答えなさい。

問五 線部 4 とありますが、どうしてそのようにふるまったのですか。「くから」という解答欄の形に合うように、文章中から三十字で抜き出しなさい。

問六 線部 5 とありますが、「ぼく」が「藤谷」と元音楽室で会うのはなぜですか。その理由がわかる部分を文章中から二十字以内で抜き出しなさい。

問七 () A～C に入る最も適当な言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア びたりと イ そろそろと ウ ガラリと エ ギチギチと オ どんどんと

問八 () D に入る言葉を文章中から五字で抜き出しなさい。

問九 線部 6 とありますが、「ぼく」がそのように感じたのはなぜですか。文章中の言葉を用いて答えなさい。

二 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、貫之が土佐守になりて、下て有ける程に、任果の年、七八斗の子の、えもいはず
 をかしげなるを、限なくかなしうしけるが、とかく煩て、うせにければ、泣まどひて、
 病づく斗思こがる程に、月比になりぬれば、かくてのみ有べき事は、上なんと思に、
 兒の爰にて、何と有しはやなど、思出られて、いみじうかなしかりければ、柱に書つけける
 都へと思につけて悲きは帰らぬ人のあればなりけり
 とかきつけたりける歌なん、いままでありける。

(宇治拾遺物語「より」)

【語注】 土佐守……土佐国(高知県)の長官

任果の年 ……任期満了の年
 をかしげなる ……うつくしく、かわいいようす 煩て ……病気になつて
 うせにければ ……死んでしまったので 病づく ……病気になる
 かくてのみ有べき事は ……このようなことばかりしていいのだろうか(いや、いけないだろう)と思い
 兒 ……子ども 爰にて ……土佐国で
 何と有しはやなど ……いろいろなことをして遊んでいたことなどを

問一 線部ア・イを現代仮名遣いに直して、ひらがなで書きなさい。

問二 線部A～Cの中に働きの違う「の」が一つあります。記号で答えなさい。

問三 線部1・3の意味として、最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 { ア にくらしいと思っていたが
 イ かわいがっていたが
 ウ 悲しく思っていたが }
 3 { ア 数日
 イ 数年
 ウ 数か月 }

問四 線部2・5の主語にあたるものの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 貫之 イ 都 ウ 柱 エ 七、八歳くらいの子

問五 線部4とあるが、どこに行こうとしているのか、文章中から適当な言葉を抜き出して答えなさい。

問六 線部6は誰のことですか、詳しく説明しなさい。

四 次の「第」と1～4の漢字は行書で書き表したものである。1～4の漢字を楷書で書いた場合、「第」の楷書と総画数が同じになるものを、1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

1 第

2 極

3 納

4 飛

教